

政策対話（危機管理部）の概要

1 テーマ

災害から自らの命を自らが守るには

2 実施概要

(1) 日 時

令和元年 9 月 7 日（土） 13:30～15:30

(2) 場 所

松本大学

(3) 参加者

8 名（自主防災組織役員、元消防分団長、消防団員、保育士、NPO 等）

県側：危機管理監兼危機管理部長、消防課長、危機管理防災課長など

3 対話での意見（概要）

区 分	意 見
防災訓練について	<ul style="list-style-type: none">・正常性バイアスが課題。行動心理学を活用するなど正常性バイアスを前提とした施策が必要。・防災訓練等への住民の参加が少ない。志のある人達が地域で取り組んでも、ついてくる人が少なく心が折れてしまう。・訓練に参加して話し合いを重ねても、行動意識に変化がみられないので参加者が減る。・参加者を習熟度別に分け、それに合わせた訓練を実施してはどうか。長く訓練に参加している人の対応を見て、「あの人のようになりたい」といった魅力を伝えることが大切ではないか。・訓練は継続が大切。訓練も楽しいものが入っているとよい。
意識啓発について	<ul style="list-style-type: none">・リアルを感じることで、意識が変わる。一般住民向けに災害現場見学の機会を設けてほしい。・過去の大災害により集落移転をしたことを、祖父母から聞いて育って防災を意識している。・他県での災害を、注意ポイントとともに情報発信してはどうか。・出前講座を多く実施してもらってありがたいが、内容や感想等の公表してほしい。
行政職員の技能向上について	<ul style="list-style-type: none">・防災担当の行政職員の異動が頻繁で、知識の引継ぎがされずにレベルが上がらない。・行政職員全員が防災リーダー研修を受講することで、地域への広がりも期待できる。
防災システムについて	<ul style="list-style-type: none">・地域防災計画を、項目別の記載から、タイムラインに沿った記載に変えたらどうか。・単発ではなく、線の取組が必要。・放送が風に流されてしまい聞こえないことがある。システムをしっかりと築き上げることも大切。・静岡県のように、誰でも利用できる訓練センターを設置すべき。